



学校と地域で未来を創るための協議会

三中コミスクだより



4月22日(水)14:30分より、三ヶ日中学校会議室にて、本年度第1回の学校運営協議会を開催しました。三ヶ日中学校は早い段階から学校運営協議会を発足させ、第1期(令和2~4年度)、第2期(令和5~7年度)を経て、今年度から第3期(令和8~10年度)をスタートさせます。

第3期のスタートにあたり、地域より9名の方が委員に任命されました。加えて、学校支援コーディネーター1名と三ヶ日支所コミュニティ担当者1名の2名がオブザーバーとして会に参加してくれます。様々な立場から三ヶ日中学校を見ていただき、よりよい学校運営ができるように意見交換をします。コミスク(コミュニティ・スクール)は、地域住民や保護者が学校運営に参画し、特色ある学校づくりや地域課題の解決に向け、学校・地域・家庭が連携して子どもたちを育む仕組みです。三ヶ日中学校では、年間4回の協議会を計画しています。少しでも「三ヶ日らしさ」を育めるように熟議を重ねていきたいと考えております。

学校運営協議会委員のご紹介

高橋一浩さん(会長)…三ヶ日中学校同窓会会長
袴田昌弘さん(副会長)…三ヶ日青年の家副所長
渥美浩明さん…三ヶ日まちづくり協議会事務局長
山本智之さん…学校後援会長(自治会連合会会長)
奥川 了さん…BLUE LAKE Project 代表
長坂恭輔さん…長坂養蜂場 専務取締役
木本貴子さん…東地区主任児童委員
鈴木あゆみさん…三ヶ日中学校保護者
伊藤美季さん…三ヶ日中学校保護者

<オブザーバー>

寺田祐真さん…学校支援コーディネーター
堀 好志さん…三ヶ日支所コミュニティ担当

学校運営協議会の日程

【第2回】 7月8日(水)
【第3回】 12月9日(水)
【第4回】 2月3日(水)



協議会において熟議を始めるにあたって、まず委員の皆さんに浜松市教育委員会より任命書・委嘱書が交付されました。その後、第3期の組織づくりとして、会長・副会長の選出、学校運営協議会の開催要件や浜松市学校運営協議会規則の確認をし、最後に議長を選出しました。協議会の詳細については、右にあるQRコードを読み、学校のホームページよりご確認ください。

三ヶ日中ホームページ



令和8年度のCS

●学校運営基本方針の承認

校長より示されたグランドデザインを基に、今年度の基本方針が説明され、熟議ののち承認された。

- ・学校評価で出た課題は、学校経営構想の中で、どう生かされているのか？
→特に家庭学習に対する意識の面が課題として挙がるが、その大切さを様々な場面で伝えていくことを意識的に行っていきたい。
- ・地域や保護者からいただいた意見を大切に、職員全体で共有して、課題解決につなげていってほしい。



●学校いじめ基本方針についての確認



- ・親としても何がいじめなのかを判断するのが難しいと感じる。子どもが話してくれないとわからないことが多いので、周りが見聞きすることが大切だと思う。
- ・今のいじめは本人が嫌だと思えば成立する。先生方も聞き取りを頑張っている。中学生のトラブルの7～8割はスマホ関連だと言われている。保護者の意識も大切になってくるので、保護者向けの講座を行うのも効果的かもしれない。

→情報モラル講座や道徳の授業など、学校はあらゆる場面で指導をしていく。保護者にも協力を仰ぎながら、いじめの未然防止に注力していき、三ヶ日町全体の「あたたかさ」を大切にしたい。

●学校評価アンケートの項目の検討

- ・過去のデータと比較して改善点を明確していくためには、あまり変更せず、継続して調査をするほうが良い。
- ・家庭学習の項目の数値は高くないが、徐々に上昇している。
- ・データを見れば学校の様子が見えてくる。家庭学習の面ではしばらく前から低い数値が続いている。部活動や行事に熱心に取り組む様子がうかがえる。



●学校運営協議会の今年度の目標の確認・決定

【目標】『特色ある・魅力ある学校づくり』『通わせたい・通いたい学校づくり』

～見方・考え方を働かせた「深いまなび」の実現、学校の活動に係る地域の方を増やす、「地域を好きになる」中学生を育成する～

- ・昨年度の反省に防災教育のことがあったが、今年度の活動に盛り込まれているか？
→「地域を好きになる」ことへの一環として、今年度は1年生に防災体験学習の時間を設けた。地域のマンパワーとして中学生が活動できる姿を目指す。
 - ・地域の大人との交流は、単なる知識習得だけでなく、成人後も続くような「顔見知り」の関係を築き、地域への愛着を育む場として総合の時間を使えるとよい。
- 生徒が「自分はこれがやりたい」という問いを持つ、自分発信型の主体的な学習を基盤にし、地域の大人にはそのサポート役（アドバイザー）として関わってもらえる形を目指す。現在はその土台作りの時期である。



●夢育やらまいか CS 加算分に対する意見書の検討



- ・地域の人の中で揉まれていくことも大切な経験となる。そういう活動の場が総合的な学習の時間であってもよいのでは？
→学習の主体である生徒が目的意識と目標を定める力を身に付け、生徒自らが課題に主体的に取り組もうとすることを大切にしたい。その上で、地域の方の力を借りながら、創造的・発展的な課題解決へとつなげていきたい。